

南長浜地域まちづくり検討会議 議事録

I 日 時 令和6年6月25日（火曜日）10時30分～12時00分

II 場 所 長浜市役所本庁3階 特別会議室

III 出席者 岩寄 博論委員（委員長）

谷口 嘉之委員	杉本 泰宣委員	磯崎 真一委員
藤居 海好委員	今庄 啓二委員	今泉 翔一朗委員
市岡 敦子委員	横田 聡委員	熊谷 理美委員
茂森 仙直委員	瀧澤 佳那委員	小出 篤委員

【まちづくりアドバイザー】

蒲生 仙治 様 松居 繁隆 様

【事務局】 未来創造部 村崎次長

政策デザイン課 手崎課長、服部課長代理、橘副参事、野村主査
商工振興課 川村課長代理、坪井係長、村岡主事
都市計画課 岩崎課長代理、松村副参事、中村係長、松橋主査
道路河川課 中川副参事

IV 内 容

1 開 会

事 務 局 開会を宣言

2 委員自己紹介

委 員 自己紹介

3 委員長選任及び挨拶

事 務 局 昨年度に引き続き武蔵野美術大学岩寄教授に委員長を選任し、これを承認。

委 員 長 挨拶

4 議 事

(1) 南長浜地域まちづくり検討事業について

事 務 局 ・資料に基づき、これまでの検討経過等を説明。

■質疑応答

熊谷委員 背景として、長浜から出て行かれて戻ってこられてないっていう数値があった。では、行って戻ってこられてない方々へのインタビューなどはしたのだろうか。その方々の意見も参考になると思う。

事務局 資料には載っていないが昨年度南長浜とは別の事業の中で、30代までの市外転出者の方に対してアンケート調査を行い、取りまとめている。転出者の理由の多くは「魅力的な仕事がない」とか、「給与の面で、こちらの方で仕事をするというよりもやはり都心部に惹かれていく」というところが多く見られた。大枠は今回の南長浜のものとずれていないことは事務局の中でも確認している。

岩崎委員長 先ほどの説明の補足を。
「資本」の説明について、「フロー」と「ストック」という考え方があるが、今回はフローだけじゃなくてストックに注目しようっていうような考え方である。フローというのは短期的な視点で例えば今年1年間の稼ぎどうしようみたいなことだと思うが、そればかりやりすぎると、中長期的な視点が抜けてしまう。ストックというのは例えば長浜地域でいうと鉄道網みたいなものを先人の人たちが作ってくれたおかげで、僕たちは便利な生活ができるわけだが、そういったものが長浜にも多くある。例えば黒壁とかもそうかもしれないし、国道沿いのいろんなお店が便利なお店があるということも。そういったストックをいろんな局面で考えていこうというのがこのベースの考え方にある。経済的なストックだけじゃなくて自然的なストックだとか、お祭りとか人の繋がりみたいなそういう社会的なストックとか、そういったものにも目を向けようというふうに整理したものが資本カードである。また、ペルソナとエコシステムマップについて初めてご覧になった方はわかりにくい点もあったかと思うが、ペルソナというのは未来の人の気持ちになってみようというもの。街というものは、何十年あるいは何百年もそこに存在するものになるので、次の世代のこと、またそのさらに次の世代のことを考えていかなければならない、ある種の責任が現在生きる人間としてあるんじゃないかと思うので、そういった意味でペルソナを作った。また、街というのは複雑な要素同士が絡み合っているもので、それを表現するために整理したものである。今後の検討に際しては、ペルソナと、このエコシステムマップ、昨年から継承されてきたものとして、これを使って今年度の検討もできればと思っている。委員の皆さんには改めてこれをじっくり見ていただきたい。

(2) 検討会議の在り方について

事務局 ・資料に基づき、今後の検討方法等について説明。

質疑応答

今庄委員

今後のスケジュールについて、月 1 回設定されているが各部会との関係はどうなるのか。毎回全員で集まるということになるのか。

事務局

検討会議の方は委員全員を想定して開くものになっており、検討会議の中で部会ごとに分かれて、ワークショップ等を行っていかうと考えている。場合によっては、部会だけで集まるということも必要になるかもしれない。

今庄委員

同じ時間に全員集まるけれども、部会ごとに議論はするということだが、そうであれば毎回全員の日程を調整して集まるよりも各部会ごとの打合せを増やした方が良いかと思う。

事務局

検討会議の中でワークショップを行い、検討会議の中でワークショップの意見集約まとめ等も行っていく予定である。各部会が同じレベル感で進めていきたいと考えている。

熊谷委員

長浜市でもコンパクトなスマートシティの話も上がっていると思うが、検討状況を共有いただけるか。南長浜でその影響が出るのであれば、事前情報を頭に入れておきたい。

事務局

現在、都市建設部において都市計画マスタープランおよび立地適正化計画という計画の策定を進めているところ。コンパクトシティの考え方については、現在の都市計画マスタープランにも載っているが、集約型多核都市構造として一定地域ごとに特色を出して、施設も集約していくというのが大枠の考え方である。それを更新する作業を都市建設部で行っているところであり、本日同席いただいている。南長浜にも影響があることなので連携をとりながら進めていきたいと思う。

事務局

(都市計画課)

今事務局から説明があったことの補足として、立地適正化計画は、国土交通省の方が進めているコンパクトシティを目指すための計画である。基本的には、住む場所が広がってしまっている一方で人口減少が起こっており、各地域の人口密度が減ってきたことによってスーパーや病院そういったものが維持できなくなってきたので、それを防ぐために一定の集約を図っていかうというものである。南長浜の計画のコンセプトも踏まえながら、立地適正化計画策定を進めていきたい。先ほどの産業立地についても本計画と絡めて検討しているところである。

岩寄委員長

先ほどの説明の補足。今回3つの部会に分かれて活動を進めていくが、この部会を敢えて観光文化会、都市計画分科会としなかったのは、まちづくりは領域横断的に進めていくことが非常に大切と考えているからである。また、先ほど今庄委員の方からご指摘あった点については、もしかすると分科会ごとに少しご相談いただくようなシーンがあるかもしれないが、全体的なところで進めていければという思いである。エコシステムマップを横目で見ながら、皆さんの検討内容をマップに入れこ

んで、それぞれ関係性を持ちながら南長浜の全体像ができてくるというふうに思っている。部分と全体の関係性ということを少し意識しながら進めていければなというふうに思っている。

横田委員 スケジュールのところで1点確認したい。令和7年度事業の決定について、どこまでの情報を取りまとめて事業を決定する必要があるか。

事務局 行政的な視点で大変申し訳ないが、予算計上のためには8月末までにある程度検討しなければならない。来年度施行する事業については、実験的な要素が大きく、また実効性が高いような事業を考えている。なかなか1年で箱物作るというのは現実的でないため、ソフト寄りにはなると想定している。どれくらいの予算かということについては、いま時点でどれだけ用意できるかという話は難しい。予算の決定は結局ところ年度末まで分からないが、事務局として必要な事業の予算確保に努める。

横田委員 来年度の予算の幅みたいなものがあったりするのか。

事務局 予算の幅について、他の事業との兼ね合いもあるため、現時点でお伝えしづらい。例として、今年度ゼロカーボン推進事業の関係で、長浜市市民生活部環境保全課で公募型プロポーザルの事業提案をされており、その中では予算上限500万として事業を募っている。この後説明の予定だが、南長浜においても、共創パートナー企業の募集を本日から開始する。共創パートナー企業の方から具体的な提案事業等があった場合は、検討会議にフィードバックして、検討していきたい。

茂森委員 次回までに準備すること、宿題的なものはあるか。

事務局 7月19日を第2回としており、そこから具体的に検討に入っていこうと思っている。ゼロからスタートするというよりかは、別添資料の南長浜基礎データ等も含めて、皆さんの専門的な知見のもと事業提案もしていただきたいと考えている。事前準備、宿題的なものについては早い段階で皆さんに連絡させていただきたいと考えている。また、先ほど岩崎委員長からも説明があったとおり、エコシステムマップや未来ペルソナを軸として、ビジョン等の検討を進めていきたいと考えているので委員の皆様においては大変お手数であるが、エコシステムマップや未来ペルソナに目を通して、南長浜に必要な残す資本、つくる資本を考えていってほしい。

茂森委員 3回の検討会議を行って、来年事業の決定という流れを考えると、おそらく2050年のビジョンは第2回で決まっていなくて検討が難しいと感じる。ある程度準備していかないといけない。どれくらいの決定内容で持っていくかということもあるが。

事務局 ビジョンの策定を第2回までにというのはスケジュール的に厳しいと考えているが、茂森委員ご指摘のとおり、ビジョンというものが明確にな

い中で先に事業を考えるとというのもどうなんだというところは理解する。現時点で第2回の進め方について答えられないが、準備という点で言えば、今お渡ししている様々な資料等だけでなく、希望するデータを提示いただければ可能な限り収集してお渡ししたい。

岩寄委員長 茂森委員ご指摘のとおりのところもあるかと思うが、現実的な進め方としては、長期的な視点と来年度っていうかなり短期的な視点を行ったり来たりしながら、進めるという形になろうかなと思う。第2回である程度長期的な視点の「仮説」を議論いただきながら、第3回で少し短期的に戻って来年事業を議論し、長期のものについてはまた第4回目以降で具現化具体化していくというプロセスになっていくと考えている。

茂森委員 宿題などいただければ全然対応するので、遠慮なくリクエストいただければと思う。

瀧澤委員 回数が限られている中なので、部会のごとにチャット等すぐに連絡が取り合えるツールがあれば連携しやすい。例えば Slack や Teams など、お持ちでしたら作っていただけるとスムーズかと思うので検討いただきたい。

事務局 検討する。

5 その他

事務局 ・南ながはま共創パートナー企業の募集について説明。
・第2回検討会議について説明。

以上